

留寿都村

1332 梅津 千尋

1. 概要

1.1 由来

村名はアイヌ語の「ル・スツ」(道が山のふもとにあるという意味)から名付けられた。

村章は6つの方向を持つ三条の光線はルスツの「ル」の組み合わせによる太陽と雪のイメージを、周辺の三角形は、村を囲む山々の限りないエネルギーと北国の厳しさ・強さを、そして中心の円形は、平和と共同を表徴したものである。

図1 村章



出典：留寿都村 HP

1.2 歴史

留寿都村の開基は1871(明治4)年、東本願寺が行った有珠郡へ至る新道開削に伴って3戸移住したのが始まりであり、分村などを経て、1925(大正14)年に現在の留寿都村が誕生した。

表1 留寿都村略年表

1897年	虻田村(現虻田町)から分離独立し真狩村戸長役場を設置する。
1901年	狩太村(現ニセコ町)を分村する。
1906年	2級町村制を施行し、全村9部制とする。
1910年	後志管内の管轄となる。全村を56部制にする。
1917年	喜茂別村(現喜茂別町)を分村する。
1922年	真狩別村(現真狩村)を分村する。
1925年	村名を真狩村から留寿都村に改称する。

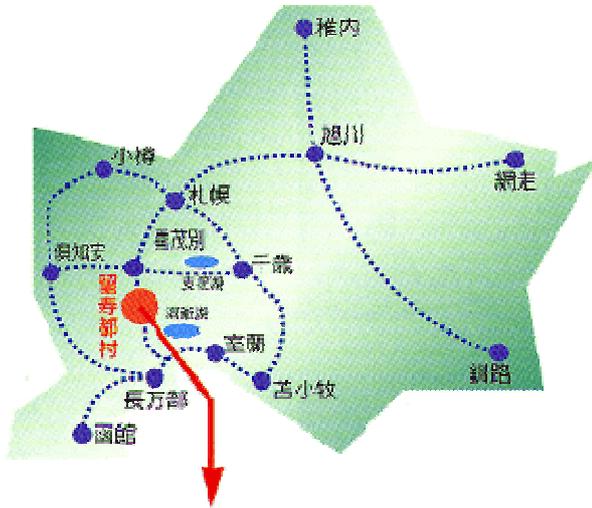
出典：Wikipedia

2. 地理・気候

2.1 地理

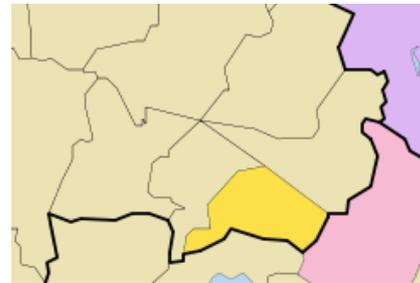
村の北側には羊蹄山がそびえ、山麓をとりまく北東の喜茂別町、北西の真狩村、南の胆振管内の洞爺湖町(旧:洞爺村)、伊達市(旧:大滝村)と境界を接している。村の中心を貫く国道230号線は虻田から洞爺、留寿都、中山峠、定山溪を通り札幌へ至る道路として1894(明治27)年に完成した。羊蹄山の農業開発に大きな役割を果たした。

図2 留寿都村の位置



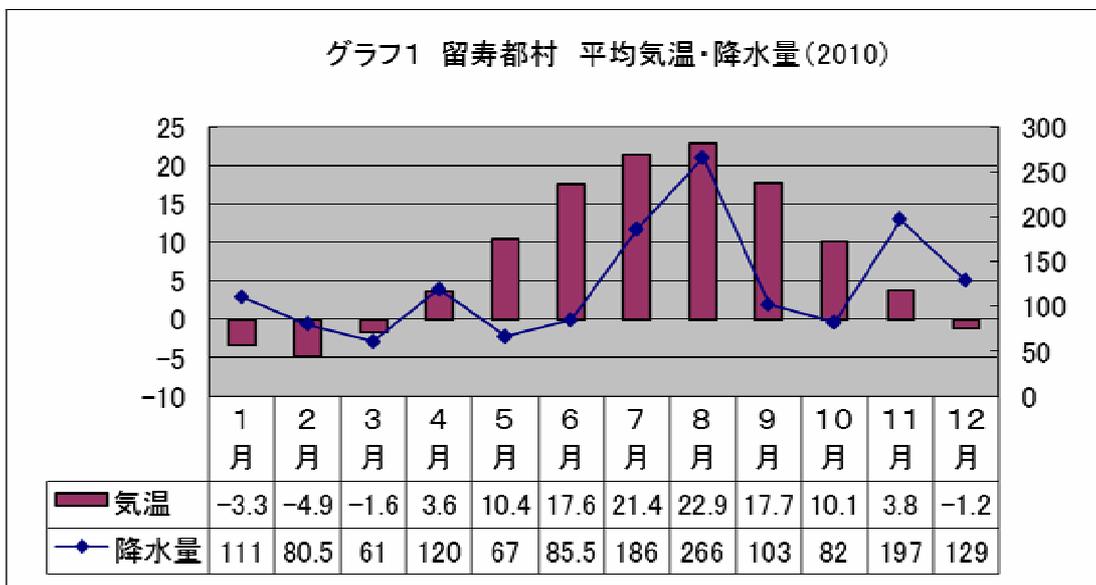
出典：留寿都村観光協会 HP

図3 留寿都村の位置



出典：Wikipedia

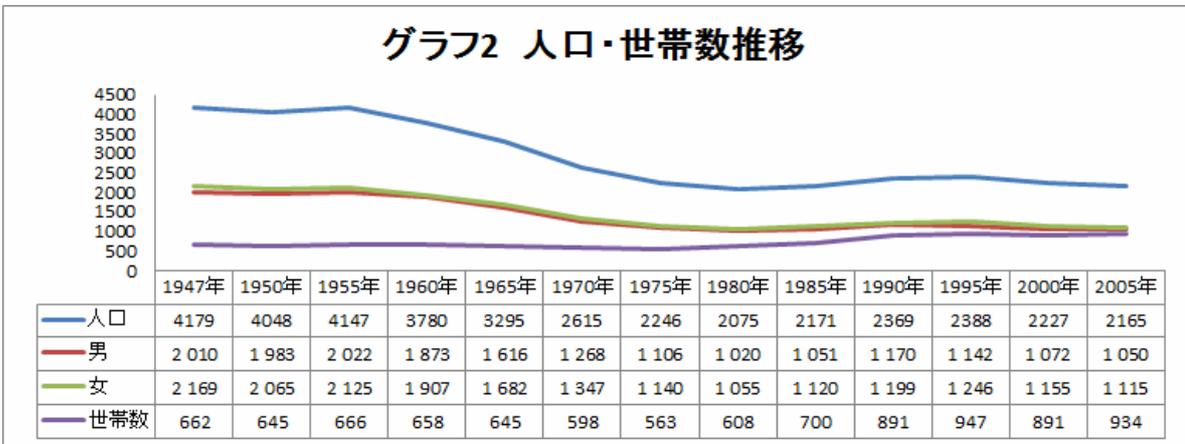
2.2 気候



出典：気象庁 HP

年間の平均気温は9.4。春の雪解けは4月下旬までかかるが、晴天が続く雨が少ない時期でもある。雪解けが比較的遅いためルスツリゾートでの営業も5月初旬までと長い。夏中秋以降は雨が多くなるが、内陸部は道内屈指の豪雪地帯となる。このような地帯を生かして、適地適作の農業地帯という特徴を持っている。

3. 人口・世帯数推移

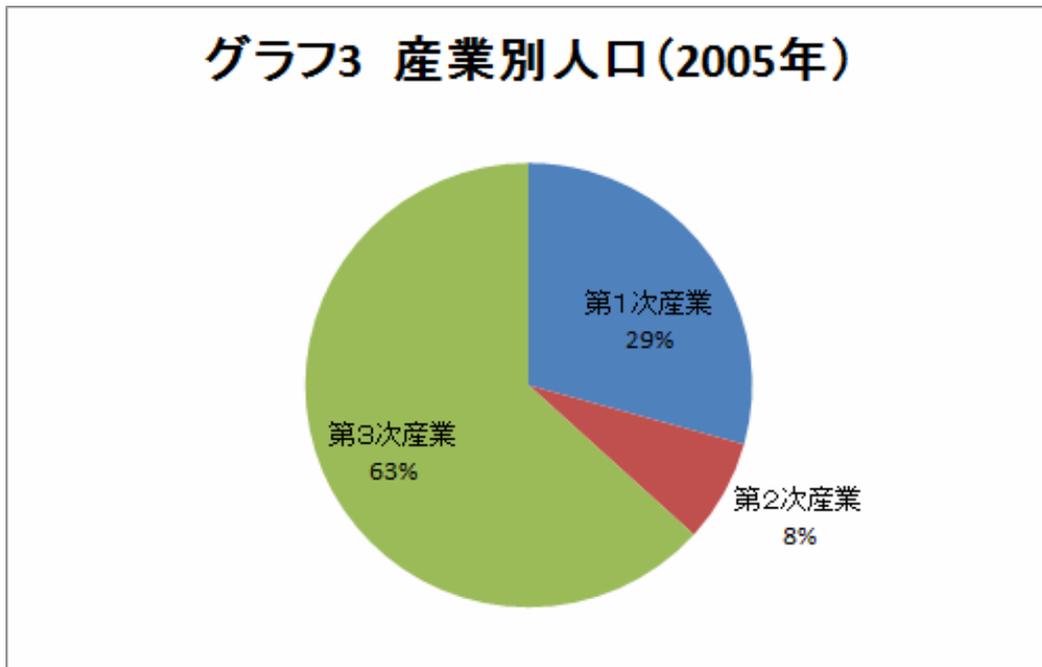


出典：北海道庁 HP

留寿都村の2005年時点の総人口は2165人。1947年から現在まで人口は約半数にまで減ってしまった。これは都市部への人口流出が考えられる。また、総人口に対して高齢者の占める割合は22.4%、総世帯数に対して高齢者世帯の占める割合は15.3%となっていることから留寿都村の高齢化がうかがえる。男女比に大差はない。

4. 産業

4.1 産業別人口



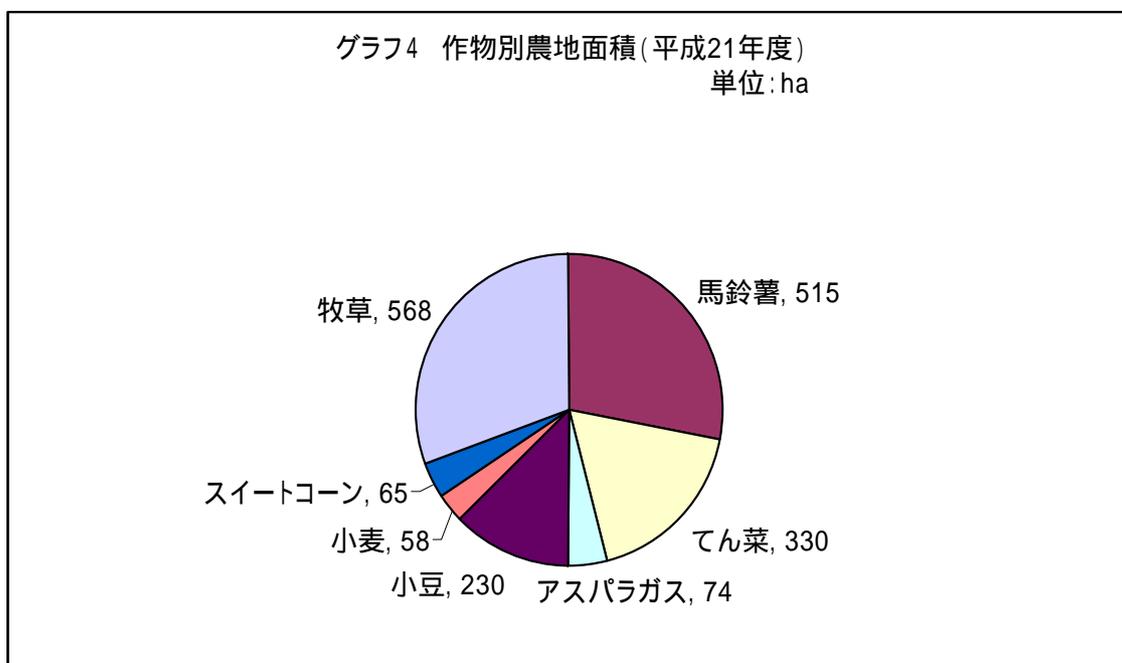
出典：留寿都村 HP

第1次産業 400人、第2次産業 102人、第3次産業 864人となっている。留寿都村では産業別人口において63%と第3次産業が占める割合が多いことが分かる。これはルスツリゾートをはじめとする観光業が盛んだからであると考えられる。

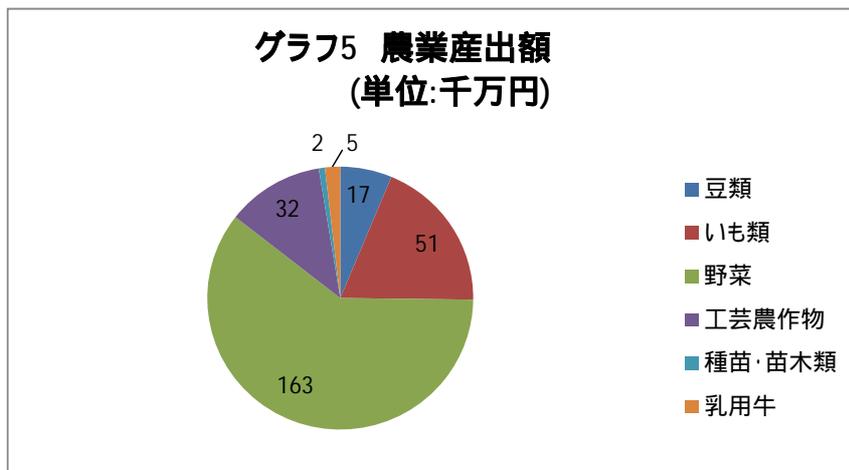
4.2 農業・畜産業

専業農家は61戸、兼業農家のうち農業所得を主とする第1種兼業農家は40戸、兼業農家のうち農業所得を従とする第2種兼業農家は8戸と世帯数に占める農家の割合は11.6%となっている。留寿都村では、豊かな自然環境の中で肥沃な土壌を生かした農業を行っており、そこで収穫された農作物は「留寿都ブランド」として高い評価を受けている。馬鈴薯はでんぷん材料として最良品種の「紅いも」の発祥地として知られ、品種改良した「キタアカリ」はソフトな甘みがあり、馬鈴薯の産地として先進的な役割を果たし、全国でも高い評価を受けている。かつて全国一の収穫量を誇ったアスパラガスは、高原の冷涼な気候のため歯ごたえと甘みを持ち合わせている。また、大根は全道一の生産量を誇り、光沢と程よい甘みと辛みがあり、品質、鮮度ともに優れている。

畜産業においては、乳肉牛の適切な放牧管理、肉質改善など積極的に推進しており、味、品質ともに高評価である。しかし、近年は後継者不足や農地の買い取り先が見つからない、などの理由から酪農業の生産量が伸び悩んでいる。牧草地が広い割に酪農の生産量が少ない理由はここにあると考えられる。農地総面積は2,570ha。



出典；留寿都村 HP



出典：留寿都村 HP

4.3 商工業

留寿都村の商店や企業、工場の多くは、国道 230 号線沿いに細長く広がっている。この国道 230 号線は 1 日平均 8000 台近くの車両が通過する道内屈指の交通量を誇る国道である。市街地から少し離れたところには、一大リゾート観光施設があり、観光客の入り込みは、年間 160 万人にもなる。これより大きな消費者の消費ニーズが見込まれることから、そのニーズを取り込み、市街地の商店より積極的な活性化の推進をはかっている。

市街地には街路樹を設置、公園駐車場を整備、冬期間の除雪により村民だけでなく通過するドライバーや観光客にも利用しやすい環境づくりを目指している。

商工業のメインとなるのが観光客を対象とした名産品であり、その代表として挙げられるのが地方からわざわざ買いに来るほど大人気の銘菓みそまんじゅうがある。100 年近い伝統を守り続けてきた素朴で豊かな風味がウリ。また、留寿都のおいしい水を使ってつくられたパンやケーキも人気である。

図 4 みそまんじゅう



出典：留寿都村 HP

図 5 留寿都村のパン

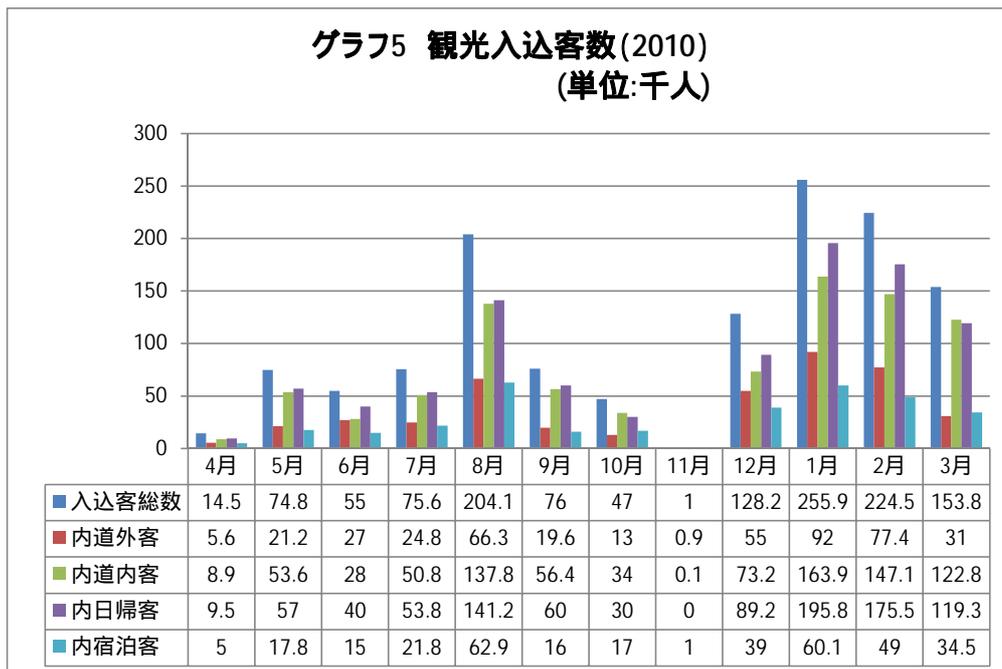


出典：留寿都村 HP

5. 観光

5.1 観光入込客数

冬はスキー場、夏は遊園地として1年を通して楽しむことができるルスツリゾートを始めとするたくさんの観光名所があることから、一般的に観光シーズンとされる時期には観光客が多い。札幌や小樽などの大都市から比較的アクセスしやすいこと、北海道では知られた雪質の高さから日帰り道内客が非常にたくさんいるようだ。



出典：北海道庁 HP

5.2 観光スポット

5.2.1 ルスツリゾート

通年滞在型のリゾートで、CMでも「Hokkaido No.1」と謳っている通り、リゾートとしては北海道最大規模である。「ルスツ高原」「大和ルスツ」という旧名称でもよく知られている。2006年4月に、200～300億円規模の投資で2008年着工の大規模な拡張計画が発表された。新たに温浴施設やコンドミニアム形式の宿泊施設などを建設し、長期滞在型のリゾートに転換する。また、2008年7月7日から9日にかけて開催された北海道洞爺湖サミットでは、議長・首脳の記者会見場、プレス関係の作業スペース等を備えるプレス関連の総合施設である国際メディアセンターとして使用された。

図 6 スキー場ゲレンデ



出典：Yahoo!画像

札幌から車で約 90 分、新千歳空港から約 80 分、苫小牧から約 80 分と近隣の都市からさほど遠くはないためアクセスしやすい。また、定期路線バスとして道南バスが乗り入れており、札幌からはルスツリゾートによる無料送迎バスが、冬期間にもスキーシーズンを中心に期間限定の送迎バスが設定されており留寿都村の観光業の基盤となっている。

スキー場は West. Mt (ウエストマウンテン)、East. Mt (イーストマウンテン)、Mt. Isola (マウントイゾラ) と 3 つの山にまたがっており、壮大なゲレンデで上質のパウダースノウ、大パノラマを楽しめる。総コース数 37・総滑走距離 42 km・輸送能力毎時 31200 人と 3 つの北海道一を誇り、 Gondola 保有数 4 基は単一スキー場では日本一である。全国スキー場顧客満足度調査で全国 48 施設中 No.1、イギリスのスキー専門誌 "The Great Skiing & Snowboarding Guide" より日本のスキー場として初めて "BEST SMALL RESORT 賞 2008" に選ばれている。

冬期間には雪が降るため閉鎖せざるを得ない北海道の施設としては突出したアトラクションの多さが特徴の遊園地。全国各地の閉鎖した遊園地から格安で遊具を引き取ることでアトラクションを増やしていった。8 大コースターを中心に、60 種以上のアトラクションを数え、近年では空中サーカスやオクタムカーニバル、アニメキャラクターの着ぐるみショーなどのイベントが多数企画されている。

図 7 遊園地全景



出典：Yahoo!画像

図8 ルスツリゾート遊園地



出典：Yahoo!画像

5.2.2 赤い靴公園

野口雨情の作詞で有名な童謡「赤い靴」の舞台としても知られる留寿都村。開拓のため離れて暮らすことになった幼い娘きみを外国人宣教師に託して留寿都村の開拓に挑んだ母親を想う娘の悲しい銅像（図9）と幼いきみを案じながら開拓に励む母かよ（図10）が向かい合うようにして設置されている。定説は次の通りである。

きみを託された外国人宣教師夫妻はやがて本国へ戻ることになるが、そのとききみは結核に冒されており、アメリカに連れて行くことができず東京の孤児院に預けられてしまう。しかし母親に会うこともできず、9歳で亡くなったという。母親のかよは、きみは夫妻と一緒にアメリカへ渡ったものと思い込んでおり、きみが東京の孤児院で亡くなったことは知らされないまま、一生を過ごしたという。

これはあくまで一つの定説であり、実際にはいくつかの定説が存在し、舞台となる土地も多数存在するため、全国各地に「赤い靴」をモチーフとした銅像が存在する。

図9 母思像



出典：留寿都村 HP

図10 開拓の母



出典：留寿都村 HP

5.2.3 道の駅 230 ルスツ

平成 15 年にオープンした道の駅で「地域資源交流センター」を併設する。国道 230 号線沿いの位置し、隣接するルスツふるさと公園・児童遊園地・フラワーガーデンなどと共にドライバーの憩いの場として、都市と農村のふれあい交流の場として多くの感動の時間を堪能することができる。

地域資源交流センターはその拠点として多くの人々に利用されている。

図 11 道の駅 230 ルスツ



出典：北の道の駅 HP

5.2.4 ルスツ温泉

源泉 100% 使用の「ルスツ温泉」は、良質・眺望ともに素晴らしい留寿都自慢の天然温泉である。疲労回復やさまざまな慢性疾患に効能を発揮する。夜間は周囲の木々がライトアップされ、露天風呂感覚を楽しむことができる。ルスツリゾートから洞爺湖方面へ 5 , 6 分とアクセスにも便利である。

図 12 ルスツ温泉



出典：留寿都村 HP

参照 HP

- ・留寿都村 HP <http://www.vill.rusutsu.lg.jp/>
- ・Wikipedia-留寿都村-
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%95%99%E5%AF%BF%E9%83%BD%E6%9D%91>
- ・留寿都村観光協会 <http://www.rusutsu.gr.jp/>
- ・北海道庁 <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/>
- ・農林水産省わがマチ・わがムラ <http://www.machimura.maff.go.jp/machi/>
- ・気象庁 <http://www.jma.go.jp/jma/index.html>
- ・北の道の駅-道の駅 230 ルスツ- <http://www.hokkaido-michinoeki.jp/data/73/each.htm>